SNSとの付き合い方、親子で話してみませんか

スマートフォンやタブレットが身近になり、画面を通して友達とつながることは、子どもたちにとって珍しいことではなくなりました。SNSなどは、交流を楽しんだり情報を得たりできる便利なツールです。しかし、画面の中のやり取りがトラブルのきっかけになることもあります。

小学生にSNSを使わせることは、本当に必要でしょうか

SNSなどのサービスには、利用できる年齢が定められているものが多くあります。13歳以上を対象としているものも多く、小学生を利用の対象としていないサービスもあります。

こうした年齢制限には理由があります。SNSでは、顔の見えない相手とも、言葉や写真を瞬時にやり取りできます。そのため、相手の気持ちを考える力、自分の言葉の影響を想像する力、トラブルが起きたときに適切に対処する力などが求められます。小学生は、こうした力を対面での関わりやさまざまな経験を通して身につけている途中です。「気を付けて使いなさいね」と任せるだけでは、十分に対応できないこともあります。

「友達が使っているから」「みんながやっているから」という理由だけで、利用を決めてよいのでしょうか。スマートフォンやタブレットを持たせることと、SNSを使わせることは別のことです。連絡や学習のために端末を持たせる場合でも、SNSは使わせない、あるいは利用するサービスや機能を限定するといった選択ができます。

画面越しでは、伝わるものが少なくなります

ビデオ通話なら顔も見えるし、声も聞こえます。しかし、同じ場所で向かい合って話すときと比べると、相手の気持ちを読み取るための情報は限られます。目の動き、ちょっとした間、声の調子、その場の空気。文字やスタンプだけのやり取りなら、なおさらです。

対面なら、相手の表情が曇った瞬間に「今の言い方はよくなかったかな」と気付けます。画面越しでは、その小さな変化に気付かないまま、やり取りが続いてしまうこともあります。冗談のつもりの言葉が相手を傷つけ、軽い気持ちで共有した写真が誰かを悲しませているかもしれません。悪意がなくても、トラブルにつながることがあるのです。

利用規約には、守るべきルールがあります

利用規約には、年齢のほかにも、次のようなルールが定められています。

- 年齢を偽って登録しない。
- 人を傷つける言葉や悪口、嫌がらせ、仲間外れにつながる行為をしない。
- 友達の顔写真や個人情報を、許可なく投稿・共有しない。
- 他の人になりすまさない。

違反すると、投稿の削除やアカウントの停止などにつながる場合があります。アプリを入れる前に、保護者の方が規約や年齢制限を確認し、お子さんにも分かる言葉で伝えてください。ゲームや動画アプリのチャット、コメント機能も同じです。

家庭の約束を、定期的に見直していますか

ご家庭では、次のような約束をしているでしょうか。

- 使うアプリやサービス：年齢制限や規約を確認し、使ってよいもの・使わせないものを決めているか。
- 使う時間や場所：親子で約束しているか。
- 個人情報の扱い：写真や名前、住所などを安易に公開しないことを確認しているか。
- 友達とのやり取り：相手を傷つける言葉や、写真の無断共有について話し合っているか。
- 困ったときの相談先：誰に相談すればよいかを確認しているか。

SNSを使わせていないご家庭では、その理由をお子さんが理解し、納得できているでしょうか。使わせているご家庭では、約束が今の使い方に合っているか、そして本当に必要な利用なのかを、改めて考えてみてください。約束は一度決めたら終わりではなく、お子さんの成長や利用状況に合わせて、定期的に見直していくことが大切です。

「叱る話」ではなく、「一緒に考える話」に

見直すときは、頭ごなしに注意するのではなく、まずお子さんの話を聞くことから始めてみましょう。

- 「最近、友達とはどんなふうにやり取りしているの？」
- 「前に決めた約束は、今の使い方に合っているかな？」
- 「困ったり、嫌な気持ちになったりしたことはない？」

いちばんの備えは、「話せる関係」

ルールと同じくらい大切なのは、困ったときに「お家の人に話そう」と思える関係です。「話したら、スマートフォンを取り上げられるかもしれない」と感じると、子どもは悩みを一人で抱え込んでしまいます。何かあったときには、まず話を聞き、一緒に解決方法を考える。その姿勢を日頃から伝えておきましょう。

おわりに

「うちの子は大丈夫」と安心するだけでなく、自分の子どもも周りの子どもたちも、みんな成長の途中にいるのだと考えることが大切です。今日の夕食のあとにでも、お子さんに「最近、どう？」と声をかけてみませんか。その小さな会話が、子どもたちが安心して人とつながり、健やかに成長していくための、大きな支えになります。